

『6才のボクが、大人になるまで』 <i>Boyhood</i> 2014年		執筆：清水 純子
制作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	<p>スタッフ：監督リチャード・リンクレイター/ 脚本リチャード・リンクレイター/ 製作リチャード・リンクレイター、キャサリン・サザーランド、ジョン・スロス、ジョナサン・セリング/</p> <p>キャスト：メイソンの母：パトリシア・アークエット / メイソン；エラー・コルトレーン/ サマンサ：ローレイ・リンクレイター / メイソンの父：イーサン・ホーク / トミー：イライジャ・スミス / 祖母：リビー・ヴィラーリ / ミンディ：ジェイミー・ハワード / ランディ：アンドリュー・ヴィジャリアル/</p>	
画像		
カラー・モノクロ	カラー	
時間	165分	
ストーリー	<p>6歳の少年メイソン（エラー・コルトレーン）の母（パトリシア・アークエット）は、アラスカに行ったきりの夫（イーサン・ホーク）に愛想をつかして、シングル・マザーとしての道を選ぶ。母は大学院卒業後に大学講師の職を得るが、次々と夫を変える。そのたびにメイソンとその姉は、転居と転校を余儀なくされ、不安定で不安な生活を送る。しかしメイソンは、再婚した父と時々会って、男としての生き方を伝授され、友人やガールフレンドとの離別を乗り越えて、テキサス州内の大学に進学する。時の経過の無常を嘆く母をあとにしたメイソンは、大学の女子学生との会話で「人が時をつかむ」のではなく、「時が人を捕える」のだと気がつく。</p>	
時代設定	特定されないが、21世紀現代	
場所	アメリカのテキサス州	
社会背景	家庭の崩壊と再構築、女性の自立、シングル・マザーの増加、不安定な人間関係、アルコール中毒による家庭内暴力。	

文化的背景	アメリカの典型的な中流家庭、離婚と再婚を繰り返す両親のもとで、義父や義母と共生する子供たちは幾度もの転居と転校を余儀なくされる。親自身の自立と子供たちの自立、性教育の必要に迫られる思春期の子供たち。
使用言語	英語
テーマ	6才の少年が成長していく12年間の時の流れを描く。
みどころ	離婚した父親との交流、シングル・マザーで子供を育てる母親の姿。
印象深いせりふ	MOM: You know what I'm realizing? My life is just gonna go, like that! This series of milestones. Getting married, having kids, getting divorced, the time that we thought you were dyslexic, when I taught you how to ride a bike, getting divorced AGAIN, getting my masters degree, finally getting the job I wanted, sending Samantha off to college, sending YOU off the college... You know what's next? Huh? It's my fuckin' funeral! ----- NICOLE : You know how everyone's always saying, "Seize the moment"? I don't know, I'm kinda thinkin' it's the other way around. You know, like, the moment seizes us. MASON : Yeah. Yeah, I know. It's constant, the moments, it's just... it's like always right now, you know?
授業教材用 メリット	アメリカの平凡な日常生活がよくわかる、刺激的な場面がないので安心できる、万人向け、教育的、家族や家庭について考えさせる。
授業教材用 デメリット	上映時間が長い、ドラマチックな展開が特にないので退屈する可能性。
映像入手元	Blu-ray & DVD: NBC ユニバーサル・エンターテイメントジャパン
原作の有無	無
支持反応	metacritic 評価（批評家 100、観客 7.7） Rotten Tomatoes 評価（批評家 98、観客 81）
キーワード	家庭、家族、少年、成長 転校、卒業、両親、離婚、再婚、学校、教育、自立、子育て、ガールフレンド、性教育、引っ越し、離別、出会い、アル中、時間、カメラ。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。